

平成27年6月に大船町と石崎町(図1)で環境・生物調査を実施しましたので、結果の概要をお知らせします。作業等の参考にしてください。

- 6月に入り、水温は大船町では15℃台(最高:15.5℃)、石崎町では16℃台(最高:16.7)まで上昇しました。
- 両地点とも先月の調査時と比べ、乾燥歩留りが増加していました。

※今期の道南養殖コンブ情報は来月で終了となります。以降は、来期の種苗の沖出し時期に合わせて再開し、情報は平成27年度のページに更新します。



図1 調査位置図

【調査概要】

今回は6月18日に大船町で、6月17日に石崎町で調査を実施しました。コンブ養殖施設付近で、水温、塩分、光量等の水深10cmごとの鉛直分布を測定するとともに、水深0、5、10、20m層で採水し、後ほど無機栄養塩濃度(窒素、リン等)の分析を行います。また、養殖施設(コンブ育成水深)に設置した、自動的に連続してデータが記録される水温・塩分計、深度計、照度計のデータ(平成27年5~6月分)を回収しました。

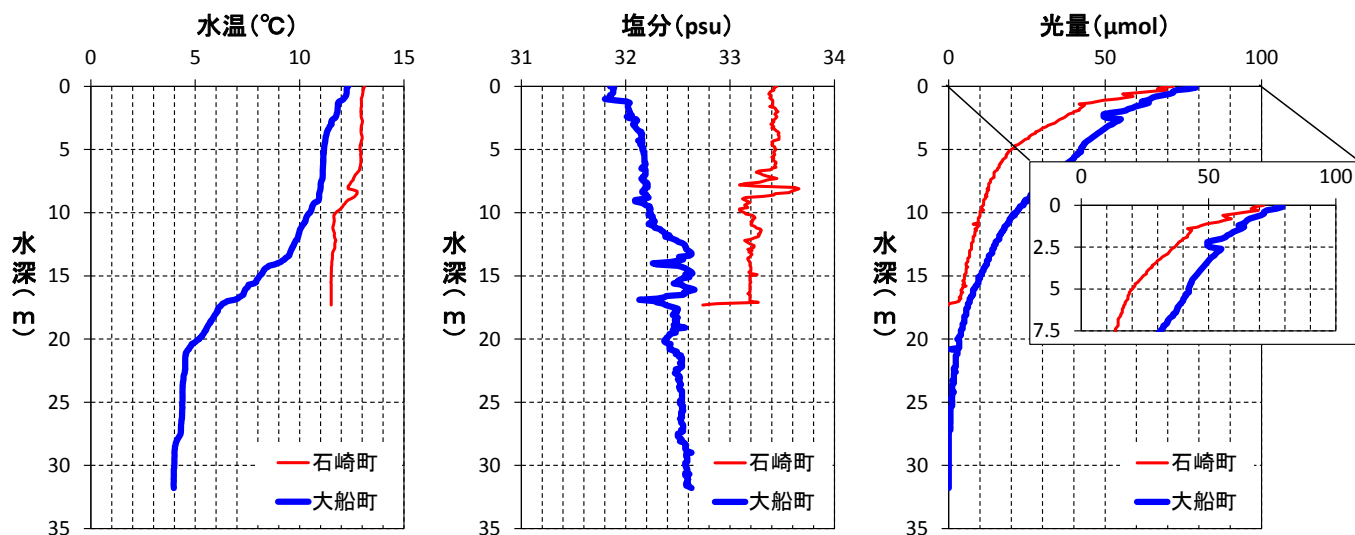


図2 コンブ養殖場(沖側)における水温、塩分、光量の鉛直分布(大船町 H27.6.18、石崎町 H27.6.17)。

【結果の概要】

- 水温：大船町では水面付近は 12℃台、水深およそ 10m から急激に低下し、20m 以下は 4~5℃でした（図 2）。石崎町では水面から水深 6m はおよそ 13℃でしたが、それ以深では 1~1.5℃の低下が見られました。6 月に入り、大船町では 15℃台（最高：15.5℃）、石崎町では 16℃台（最高：16.7℃）まで上昇していました（図 3）。
- 塩分：大船町では 31.8~32.7、石崎町では 32.7~33.7 でした（図 2）。大船町では、水深が深くなるにつれてわずかに増加する傾向が見られました。一方、石崎町では水深が深くなるにつれて減少する傾向が見られました。
- 光量（調査時、大船町：曇り（濃霧）、石崎町：曇り）：大船町では水面直下の光量は 76.8 μmol 、石崎町では 71.8 μmol でした。水面直下の光量が 50%となる水深は、大船町では水深 6m 付近、石崎町では 2.5m 付近でした（図 2）。両地点とも光量が著しく低い値でしたが、これは調査時の天候によるものです。連続観測で得られた 6 月の光量の最大値（晴天時）は、大船町で 950.0 μmol 、石崎町で 614.3 μmol でした。
- 促成マコブの生育状況：大船町で 374~577cm、石崎町は 547~1160cm でした。平均葉長は、大船町では 484cm（前年 6 月の平均葉長：532cm）、石崎町では 907cm（前年 6 月の平均葉長：909 cm）でした。両地点とも先月と比べて乾燥歩留りが増加していました。大船町では二枚貝の稚貝やコケムシ、石崎町では少数のヒドロ虫（通称：毛）の付着やヨコエビの付着が見られました。

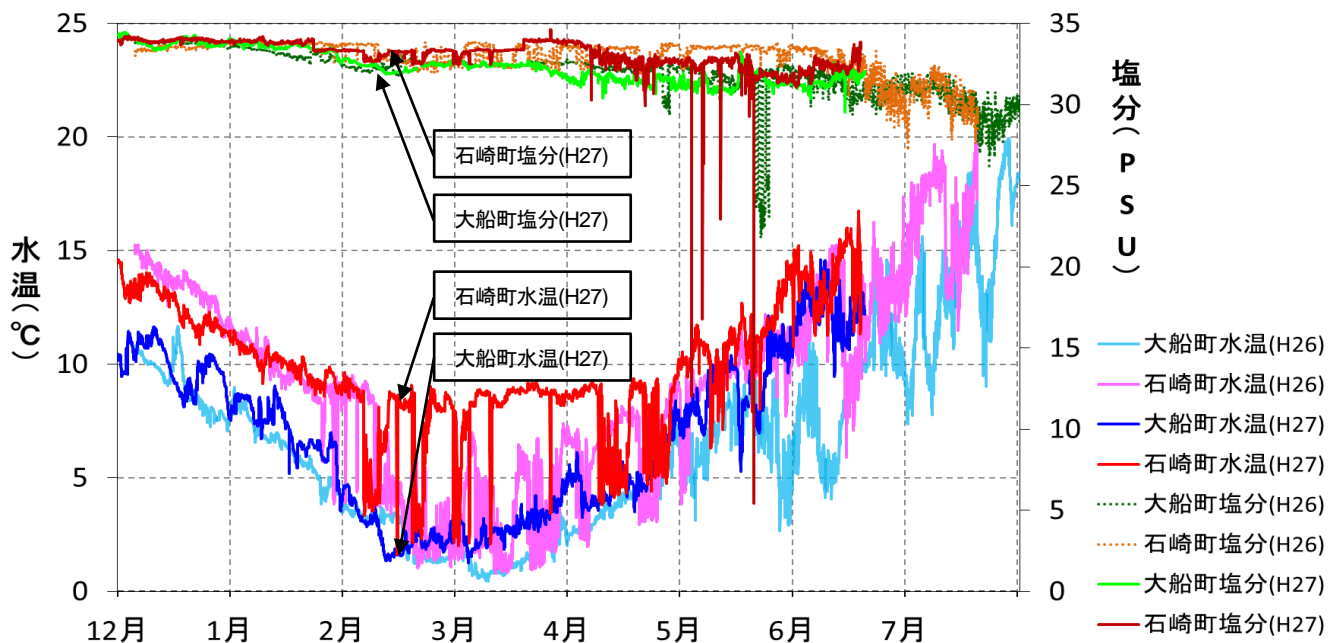


図3 コンブ養殖場における水温、塩分の推移

平成 27 年の水温、塩分の測定データに平成 26 年の測定データを重ねて表示しました。データは 1 時間ごとの測定値を示します。

【用語解説】

- 「塩分の単位 psu」：実用塩分単位（Practical Salinity Unit）の略。海水 1kg に何 g の塩分が溶けているかを示し、標準海水に対する電導度の比から求めます。
- 「光量」：光量子束密度（1 m²、1 秒当たりのモル数（1 mol=アボガドロ数 6.02×10²³個））。約 50~70 倍すると照度（lux）の値となります。

本調査は、関係漁業協同組合、市、町、渡島総合振興局、水産技術普及指導所等と連携して実施しております。内容に関する事、その他情報等ありましたら、最寄りの関係機関、または函館水産試験場までご連絡ください。

【お問い合わせ】

〒040-0051 函館市弁天町 20 番 5 号
函館市国際水産・海洋総合研究センター内
Tel. 0138-83-2893（調査研究部） Fax. 0138-83-2849
この内容は以下のホームページでも公開しています。
<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate>
(担当) 前田

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
水産研究本部 函館水産試験場 調査研究部
Hokkaido Research Organization (HRO)
Hakodate Fisheries Research Institute